

Stage7

Dragon Hunter

ドラゴンハンター

作・クレア・ルウェリン

絵・ジョン・スチュアート

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話すのといいでしょう。

- ・表紙をお子さんと見て、つぎにこの本のページをパラパラとめくってください。この本がどんなことについて書かれていそうか話しましょう。
- ・お子さんがドラゴンの存在を信じているかたずねましょう。お子さんがどうしてドラゴンについて知っていると思うのか話してもらいましょう。
- ・探検家がどういうものか、探検家はどんなことをするのかについて話しましょう。
- ・2 ページにのっているひっかけりそうなことば「コモド」を見つけましょう。お子さんがそのことばを読むのを手伝いましょう。

自分のスピードでこの本を読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

<ひっかかることば>

ここにあげるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかけりそうなことばです。

dragon ドラゴン

Komodo コモド

explorer 探検家

island 島

discovered 発見した

museum 博物館

lizard トカゲ

tongues 舌

[p. 1]

ドラゴンハンター

目次

ドラゴン物語	p.2
コモド島	p.4
ドラゴンの発見	p.6
ドラゴンのわな	p.8
ニューヨークのドラゴン	p.10
コモドオオトカゲ	p.12
新発見	p.14
用語集/インデックス	p.16

作・クレア・ルウェリン

絵・ジョン・スチュアート

[p. 2]

ドラゴン物語

およそ 100 年前、人々は実在するドラゴンの話を耳にしはじめました。そのドラゴンはコモドという島に住んでいました。

「気をつけて！ ドラゴンだよ！」

[p. 3]

ニューヨークの探検家がドラゴンの話を耳にしました。探検家はコモドに行ってみたいと思いました。その話が本当かどうか確かめたいと思ったのでした。探検家の名前は W・ダグラス・バーデンとい

いました。

- <アメリカ>
- <ニューヨーク>
- <イギリス>
- <アフリカ>
- <コモド>

コモドはニューヨークから遠く離れています。

[p. 4]

コモド島

「ドラゴンなんか見えないよ！」

バーデンはコモドに船で向かいました。バーデンは仲間を連れて行きました。ドラゴンをつかまえて、ニューヨークに連れて帰りたいと思ったのです。

[p. 5]

バーデンはクモやヘビといっしょに小屋を使わなければいけませんでした！

- <グリーンツリーバイパー> (クサリヘビ科のヘビ)
- <ジョロウグモ>

バーデンと仲間の一行は、島に着くと小屋を作りました。それからドラゴンをさがしに行きました。

[p. 6]

ドラゴンの発見

バーデンは島を探検しました。バーデンは泥の中に巨大な足あとを見つけました。それから物音を聞きました…… 見上げると巨大な動物がいました。

<かぎつめ>

[p. 7]

そいつは頭を左右に振り、鋭い歯とかぎつめをもち、長くて先の割れた舌をもっていました。

バーデンはドラゴンを発見したのです！

- <目>
- <頭>
- <舌>

「助けて！ ドラゴンだ！」

[p. 8]

ドラゴンのわな

バーデンはその動物を「コモドドラゴン(コモドオオトカゲ)」と呼びました。ニューヨークに連れて帰るために1匹つかまえたいと思いました。そこでバーデンと仲間はわなをつくって、死んだヤギを中におきました。

「野生動物をわなにかけていいと思う？」

[p. 9]

巨大なコモドドラゴン(コモドオオトカゲ)がヤギを食べにやってきました。

ドラゴンはわなにかかりました。バーデンはコモドドラゴン(コモドオオトカゲ)をかごの中に閉じ込めましたが、そいつはとても強いやつで、次の日、そのドラゴンはいなくなっていました。

[p. 10]

ニューヨークのドラゴン

結局、バーデンは2匹のもっと小さなドラゴンをわなでつかまえました。バーデンはニューヨークに2匹を連れて帰り、動物園に渡しました。また数匹の死んだドラゴンを博物館に渡しました。博物館はそのドラゴンを展示しました。

わたしたちは現在もバーデンのドラゴンを見ることができます。バーデンのドラゴンはニューヨークにある「アメリカ自然史博物館」に展示されています。

[p. 11]

バーデンは自分の冒険のことをおおぜいの人に話しました。その中のひとりが1本の映画をつくりました。それはニューヨークに巨大な獣を連れてきた探検家の話でした。

それは『キングコング』という映画でした。

「怪物の映画をなにか見たことある？」

1933年製作の『キングコング』の一場面から。

[p. 12]

コモドドラゴン(コモドオオトカゲ)

コモドドラゴン(コモドオオトカゲ)は巨大なトカゲです。舌を使って空気中の臭いをかぎます。コモドドラゴン(コモドオオトカゲ)はこうやってえさを見つけるのです。

[p. 13]

コモドドラゴン(コモドオオトカゲ)は危険です。

口の中が命をうばうほどの細菌であふれてるのです。コモドドラゴンが動物にかみつくと、その細菌が動物を殺します。ときにはドラゴンが人にかみついで人間を殺すこともあります。

「臭い！ コモドドラゴン(コモドオオトカゲ)の息は臭いんだ！」

<知識>

体長:2~3 m

体重:最大 136 kg

出生時の大きさ:40 cm

走る速さ:時速 20 km

産卵する数:15~30 個

寿命:30~50 年

[p. 14]

新発見

コモドドラゴン(コモドオオトカゲ)はいまでもコモド島に生息しています。今日、約 5000 頭のドラゴンが生きています。

ほかにも新たに発見される動物はいるのでしょうか？ いますよ！ ここで紹介する動物はすべて、ここ数年に発見されたものです。

<発見>

パープルシースター アメリカで発見。

[p. 15]

<発見>

ヤリギエスヤブシトド 南アメリカで発見。

<発見>

ハイランド・マンガベイ アフリカで発見。

<発見されたもの>

ドワーフ・サラマンダー

南アメリカで発見されました。

「もし探検家だったら、どんな動物を見つけない？」

[p. 16]

用語集

discover なにかを見つけること。

explorer わたしたちがほとんど知らない場所を旅する人。

germ 小さな生きもの、小さ過ぎて見えない。人を病気にする細菌もある。

lizard うろこ状の皮ふをした動物。

museum 人が訪ねて行って見ることができるように、興味深いものが保存しているところ。

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

・コモドドラゴンについてどんなことがわかったかな？

・8 ページにのっているマックスの質問「野生動物をわなにかけていいと思う？」について話しましょう。

・この本はおもしろかった？ それはどうして？

この本をまた読んでみようとお子さんにすすめてください。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

絶滅寸前の動物について話しましょう。図書館の本やインターネットでさがしましょう。

この本にのっている地図をもういちど見ましょう。コモドがどれくらい遠くにあるのか、長距離を旅するのにどれくらい時間がかかるのか話しましょう。

お子さんがやりたいと思うなら、この本にのっているお気に入りの動物を絵に描いて、名札をつけてもいいでしょう。